国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 30 年度第 1 回）議事録

日　時：平成３０年４月２７日（金）１０：００～１１：４５
場　所：国立がん研究センター　管理棟　第 1 会議室
出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、北川雄光理事、南砂理事、松本洋一郎理事、児玉安司理事、小野高史監事、増田正志監事
欠席者：なし

Ⅰ．前回（平成 29 年度第 12 回）議事録の確認
・前回議事録について了承。
・議事録署名人を児玉理事と増田監事に依頼。

Ⅱ．審議事項
１．なし

Ⅲ．報告事項
１．６か年計画、事務部門改革等
資料に沿って報告された。
【主な意見等】
・電子カルテについて、NCC に限らず病院の経済的負担が大きくなっていることから、全国的標準化が進むような取組も期待したい。
・情報システムについて、個人情報保護や現場の状況把握を踏まえ、企画機能の強化と組み合わせていくことが重要。
・今回のプランを実行し成果を出していくためには、現実的な問題を詰めることが重要。各部門でＢＰＲを深掘りし、業務の正確性向上と非効率解消を徹底すべき。
・現行業務を棚卸しし、全体を俯瞰できるようにして、業務全体の最適化を目指したい。

２．先進医療によるＮＣＣオンコパネル遺伝子検査
資料に沿って報告された。

３．東京医科大学との包括連携協定
資料に沿って報告された。
【主な意見等】
・連携大学院の全体状況を知りたい。政府方針等もあり、大学側から連携を求める声が高まるのではないか。ＮＣＣ側では、事務処理などの問題もあるのではないか。
・包括連携協定に関しては医学系大学の他にも薬科大等との連携もあり、また、企業との連携も拡大中。全体状況や方向を整理し、改めて報告したい。

４．がん診療連携拠点病院等院内がん登録生存率
資料に沿って報告された。

５．アジアの関係機関との協力

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・がんはアジア諸国共通の課題であり、日本の技術・機械が浸透し、人材を育成していくことにより、我が国への大きな経済的メリットも期待できるのではないか。

・海外機関との連携協定においては、知財に注意することが必要。我が国では、ゲノム、ＡＩ、画像診断などのノウハウや情報について、知財などの保護が遅れている面がある。法的に不正競争防止法だけでよいかなど、国レベルの議論が必要であり、将来に向けた技術の価値を大切にすべき。

・優れた技術は国の宝。有形・無形のプレッシャーがあり、厚労省にも適切な対応の在り方を求めているところ。法曹関係者の知恵を借りながら、強い意志を持って守るべきものを守っていきたい。

６．テレワークの導入

資料に沿って報告された。

７．平成 29 年度寄付実績

資料に沿って報告された。

８．投資委員会報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・がんゲノム情報管理センターについて、今後の機能に見合った財源が保障されていないので、何とか努力して将来の安定を目指したい。

９．政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・NC の今後の在り方検討会について、独立行政法人通則法の理念に立ち返り、国の政策実現に向けて本来の機能が正しく発揮されるようにするための議論を期待。NCC としては、財源の在り方を含め、そのような視点から対応してほしい。

10．広報実績

資料に沿って報告された。

11．３月分月次決算等

資料に沿って報告された。